T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録 ベトナムの歴史探訪〈後編〉
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 113, No. 9, pp. 30-31
Citation(English)	INVENTION, Vol. 113, No. 9, pp. 30-31
発行日 / Pub. date	2016, 9

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

知財見聞録

ベトナムの歴史探訪〈後編〉

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授　田中 義敏

日本の香りが残る街ホイアン

前回に引き続き、今回もベトナムの歴史探訪を紹介する。

ホイアンはベトナムの国際貿易港として大いに繁栄してきたが、19世紀になるとトゥボン川から運ばれた土砂が堆積して港が浅くなり、帆船から蒸気船へと交易船が交代。街は急速に衰退し、歴史の中に取り残されていった。

「栄枯盛衰」という言葉は、どこの国や都市にも当てはまる。「栄盛」があれば「枯衰」もあるのが世の常なのだ。

ホイアンは19世紀に入って人々から見放され、衰退の一途をたどる。

しかし、ダナンなど他の都市が発展し、古き物が破壊され、新たな物が作り上げられていくなかで、ホイアンは見捨てられたが故に古き良き時代の遺品をそのまま残せたのではないかと思わせる、非常に魅力的な街である。

ホイアンで１時間ほどの散策を楽しんだ。古く、歴史的にも貴重な面影を残すホイアンの町並みは、1999年にユネスコの世界文化遺産に登録されている。

ホイアン旧市街、チャンフー通りとグエン・チ・ミンカイ通りを結ぶ場所に位置する日本橋は、幅３ｍ、長さ18ｍの瓦屋根付きの太鼓橋である。

1593年に日本人が架けたといわれており、「朋あり遠方より来たる、また楽しからずや」という意味で「来遠橋」とも呼ばれている。

申（さる）年に着工し、戌（いぬ）年に完成したことから、橋の東側には猿の木像が、西側には犬の木像が祭られている。「犬猿の仲」といえば、非常に仲が悪いことのたとえであるが、友人いわく「橋の手前が日本人街、橋の向こう側が中国人街」とのこと……。

しかし、帰国後にいろいろ調べてみたが、そのような記述はどこにも見当たらない。単なるジョーク（皮肉？）だったのかもしれない。

ホイアン郊外には1647年に没した谷弥次郎兵衛の名が刻まれた日本人墓地があり、日本人街で暮らしていた商人たちの眠る墓として祭られているという。しかし、残念ながらそこまで足を延ばす時間はなかった。

その代わり、友人が案内してくれたのは、旧市街の中央付近にそびえ立つ上半身の石像。この人物がホイアンの日本人街を繁栄させた日本人であるとの説明を受けた。

写真を撮ってきたが、そこに刻まれた人名まで読み取ることはできない。しかし、日本人の足跡が異国の地に残されているというのは、筆者にとってうれしい発見である。

ホイアンの観光名所となっている日本橋

ホイアン日本人街の立役者の石像

グエン朝の都フエ

人口約30万人の都市フエは、19世紀初頭から20世紀半ばにかけて君臨していたベトナム最後の王朝、阮（グエン）朝の都が置かれていたことで知られる。市内には王宮や寺院などがあり、郊外には歴代の皇帝廟や寺院などが点在している。

フエはベトナム戦争中、テト攻勢の舞台となったため、建物の多くは壊滅的な被害を受けたものの、王宮をはじめとする歴史的建造物は部分的に復元され、一部がユネスコの世界文化遺産に登録されている。

王宮の広大な敷地内に点在する建物の多くもベトナム戦争によって破壊されてしまったが、戦後、王宮門などの主要な建物は復元された。しかし、敷地内にはいまだに戦火の爪痕が残されている。

ベトナムの国旗が大きな台座の上で舞っていた。王宮門は、ちょうど北京の紫禁城の入り口のような形であり、王宮を象徴する立派な建物だった。

カイディン帝廟はグエン朝第12代皇帝のカイディン帝（在位：1916～1925年）の廟。1920年から12年かけて造られたバロック調の建物であり、廟内には壮麗なモザイクが施されている。

中国や欧州などから陶器やガラスを集めて作られた装飾には、日本のビール瓶も使用されているという。内部には金箔が貼られたカイディン帝の像が置かれ、像の約９ｍ下に皇帝の遺体が安置されている。

「フエには100の寺がある」ともいわれているが、そのなかでも、チャム人によって造られたレンガの丘の上に立つティエンムー寺が有名とのこと。ここも友人に案内してもらった。

ティエンムー寺に置かれた亀の石像の甲羅には、仏典の一節や皇帝の業績、寺院の建立年などを記した石碑が載せられている。この寺の側に建てられているトゥニャン塔（慈仁塔）は高さ約21ｍ。各層に仏像が安置され、本堂の裏側には焼身自殺を図ったティック・クアン・ドックが生前に使用していたオースチンが展示されている。

ベトナムといえば、ハノイやホーチミンを思い浮かべる方が多いと思う。ビジネスともなれば、それ以外の地域を訪れる機会はなかなかないだろう。

筆者は、幸いにも旧知の友が招待してくれたおかげで、これまで訪れたことのないベトナム中部の３都市の歴史探訪を経験することができた。筆者が元気なうちにどうやってお返しするかをしっかり考え、今後も長い付き合いを続けていきたい。

王宮にたなびくベトナム国旗

カイディン帝廟

ティエンムー寺のトゥニャン塔（慈仁塔）

王宮の牛門で記念撮影

金箔が貼られたカイディン帝の像

ティック・クアン・ドックが使用していたオースチン